公　　民　［ 倫理 ］　（100 点　50 分）

2018 年 5 月 24 日（木）1 限　実施
前期①考査
千葉県立長生高等学校　第 3 学年　全組
Edited by K.Kataoka

注　意　事　項

１　試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

２　解答用紙はマークシート式です。

３　受験番号はアルファベットを数字に直し，次の例のように５桁で記入してマークを忘れないこと。
例　３年Ｄ組１番　→　30401

４　試験中に解答用紙の不足，問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせなさい。

５　試験終了後，問題冊子は持ち帰って復習をするとともに，答案返却の際に持参すること。

倫　　理

（解答番号［1］～［50］）

第１問　次の文章を読み神話的世界観についての下の問い（**問１～問５**）に答えよ。（配点　20）

ギリシア神話の宇宙生成神話のうち，もっとも規範的なのは［　1　］に描かれるもので，ここでは神々も宇宙も生まれ出てくるものと構想される。最初は混沌を意味する［　2　］が，ついで［　3　］(大地)とその奥底なるタルタロスが，さらにいわばいっさいの生成の根源力としてエロスが生じた。他方［　3　］はひとりでウラノス(天)を生む。大地と天とにより両性生殖が始まり，すべての神々と人間との元初となる。すなわち大地は天に添寝してクロノスを含む6人の男神と6人の女神とを生む。これがティタン神族である。ところが天は子を憎み，大地の奥処に隠して出ることを許さない。苦悶した［　3　］は末子クロノスに勧め，鎌で天父の男根を切断せしめた。肉片は海に落ち，まわりに泡(アフロス)が生じ，そのただなかから愛の女神［　4　］が生まれた。これは神話にしばしば見られる語源俗解だが，海からのこの女神の誕生はその本性にもふさわしい。

人類の誕生についての物語も一つに限らないが，まず依拠すべきは［　5　］の語る五つの世代の物語であろう。はじめにオリュンポスの神々は人間どもの黄金の世代を創った。次にはるかに劣った銀の世代が創られた。崇神の念を欠くこの世代は滅ぶと，それでも地下の祝福された者どもと呼ばれることになった。3 番目の青銅の世代はゼウスが創った。この世代が青銅を武器として互いに戦い合って没すると，4 番目には英雄の世代が創られた。彼らは (a)半神（ヘロス）とも呼ばれ，もっぱら衰退をたどるかに見えた人類が，ここで幾分もち直したように描かれている。ゼウスは5番目に鉄の世代を大地に置いた。これが現在の世代で労苦にさいなまれ，あらゆる悪のはびこる時代であるとされる。

人間と神々との関係を規定する神話としては，同じく［　5　］が語る，プロメテウス神話がいっそう重要であろう。かつて犠牲獣の配分をめぐって神々と人間どもがいさかいを起こしたとき，プロメテウスが奸智をもって調停を企てた。肉と内臓を胃袋に包んだものと骨を脂肪で覆ったものとに分けゼウスに選ばせた。彼はだまされたふりをして骨の方を選んだので，以来人間たちは神々に祭壇で白い骨を焼くならわしとなった。ところで奸計に立腹したゼウスは人間文化の礎でもある火を与えようとはしなかった。プロメテウスは火を盗み出し人間に与えた。それに気づいたゼウスは工匠神ヘファイストスに命じて粘土から乙女の姿を創らせ，神々皆が贈物をしたところから［　6　］(すべての贈物である女)と名づけた。彼女が下界に持参した甕のふたをあけると，病気，労苦その他の災禍が出て世に広まった。彼女が驚いてふたをしたので希望だけは中にとどまった。

この物語は神と人との存在を前提としているように見えるが，両者に何の隔りもなかった状況から，いかに別々の存在となったか，また別々でありながらいかに交通がなされうるかの物語であって，(b)ギリシア人の神観，人間観の基本を語っている。

問１　文章中の空欄［　1　］～［　6　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［1］
① 神統記　　② イリアス
③ オデュッセイア　　④ 仕事と日々

［2］
① ウラノス　② コスモス
③ カオス　④ アレス

［3］
① ガイア　② ヘメレ
③ ニュクス　④ ゼウス

［4］
① テティス　② ヘラ
③ アフロディテ　④ アテナ

［5］
① ヘロドトス　② ヘシオドス
③ ホメロス　④ ソフォクレス

［6］
① キルケ　② テティス
③ ヘレネ　④ パンドラ

問２　下線部(a)に関して，ギリシア神話の中でヘロスに該当する人物として適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［7］

① パリス　② アキレウス　③ アポロン　④ ヘクトル

問３　下線部(b) に関して，文中に見られる神観・人間観として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［8］

① 人間と神々は同じ族であり，いずれも宇宙の中から自然発生的に生まれたが，長く対立と争いが継続している。
② 人間と神々はもともと同じ族であり，神々が徐々に人間となって地上で繁栄することになった。
③ 人間の族と神々の族とは別のものであり，互いは一切関わりや交わりを持つことなく世界を棲み分けている。
④ 人間の族と神々の族とは別のものだが，どちらも父と母の間に生まれ，同じような感情を持ちながら生きている。

問４　次の『イリアス』のストーリーのＡ～Ｆの順番の組合せとして最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［9］

Ａ　戦況は破局的になり，アキレウスの親友パトロクロスは見かねて，アキレウスの武具を借りて勇戦するが，トロヤ方の総帥ヘクトルに討たれる。
Ｂ　神々のとりなしにより，トロヤの老王プリアモスが，夜陰にアキレウスの陣営を訪れ，息子の遺体を収容して城へ帰り，葬儀を営む。
Ｃ　テティスはゼウスにすがってわが子の名誉回復を嘆願し，ゼウスはアキレウス再起の花道を設けるために，戦局をギリシア軍に不利になるように計らう。
Ｄ　アガメムノンとアキレウスとの間に争いが起こり，アキレウスは侮辱を受けたことを怒り，戦場にたつのを拒む。
Ｅ　アキレウスも親友の仇を報ずるために決起し，ヘクトルを一騎打ちで倒す。アキレウスの怒りはなおも収まらず，ヘクトルの死骸を辱め続ける。
Ｆ　総帥アガメムノンが寵愛している捕虜の女クリセイスは，アポロンの神官の娘であるが，その返還を拒んだことからアポロンの怒りを招き，疫病が蔓延する。

①　Ａ→Ｅ→Ｂ→Ｃ→Ｄ→Ｆ
②　Ｃ→Ａ→Ｅ→Ｂ→Ｆ→Ｄ
③　Ｆ→Ｄ→Ｃ→Ａ→Ｅ→Ｂ
④　Ｄ→Ｆ→Ａ→Ｅ→Ｂ→Ｃ

問５　次の文があらわすギリシア語の単語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［10］

この語は元来〈整頓〉〈装飾〉〈秩序〉を意味する言葉で，英語 cosmetic が化粧品の意であることにうかがえるように，女性が服飾や化粧で装いを凝らした状態や，軍隊や社会の規律や秩序を表現するために使われたが，後に自然界の秩序立った様相を示すのに転用され，ついには〈世界の秩序〉あるいは秩序の貫徹した〈世界〉そのものを意味する語へと変貌を遂げていった。ラテン語でほぼ同じ意味の語 mundus が〈世界〉を表すために用いられるようになったのも，最初はこのギリシア語の訳語としてであり，とくにキケロやルクレティウスの著作を通してこの用法がラテン世界に普及していったといわれる。

①　ＡＰＭＯＮＩＡ
②　ΜΥΘΟΣ
③　ΚΟΣΜΟΣ
④　ΣΧΟΛΗ

第２問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問６**）に答えよ。(配点　24)

古代ギリシア人たちは，ポリスとよばれる小規模の共同体を中心として生活を営んだ。ポリスの多くは，市民を中心に運営されたので，君主制の独裁的国家と異なる自由な気風があった。また，他の地域との交流もさかんであったため，ポリスからはすぐれた文化が生み出された。とくに，イオニア地方に形成されたポリスの多くは，オリエントの学問・文化と接して，新しい知識活動をおこなう人々を輩出した。そのなかでも［　11　］のタレスは，ものごと全般の (a)根本的な原理を探究し，万物の原理を［　12　］であると考えた，と伝えられる。

その時代まで多くの自然現象は，神話や伝承にもとづいて，神々の意志や作用などによって引き起こされると説明されていた(神話的世界観)。これに対し，タレスなどの探究は，自然全体について経験される事実を尊重しながら，できるだけ (b)ロゴスにかなった説明をあたえようとするものであった。このような説明は，観察と論理に照らしあわせて，批判したり改良したりすることができた。実際にこのころから多くの人々が，自分の考えを一方的に主張するだけでなく，たがいの考えを検討し批判しながら，よりよい説明や理論を求めるようになっていった。

たとえば［　13　］は，「万物は流転する」ととなえ，世界はたえず変化するものであるが，統一した秩序を保っていると考えた。ピタゴラスは，世界全体が数にもとづいて［　14　］していると理解した。さらにパルメニデスは，論理的な考え方を徹底して運動変化を否定するにいたった。一方，［　15　］は，それ以上分割されない原子と［　16　］から世界が構成されていると考え(原子論)，世界のあらゆる現象は原子の配列と運動によって説明できるという見方にまで到達した。このような新しいものの見方は，自然の全体について理にかなった説明を求めるものであったため，「自然哲学」とよばれることもある。

問１　文章中の空欄［　11　］～［　16　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［11］
① スタゲイラ　② エレア
③ アテネ　④ ミレトス

［12］
① 火　② 土
③ 水　④ 空気

［13］
① デモクリトス　② アナクシメネス
③ アナクシマンドロス　④ ヘラクレイトス

［14］
① 固定　② 支配
③ 調和　④ 変化

［15］
① デモクリトス　② アナクシメネス
③ アナクシマンドロス　④ ヘラクレイトス

［16］
① スコレー　② アトマ
③ ケノン　④ プネウマ

問２　下線部(a)に関して，これを意味するギリシア語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［17］

① ＢＩＯΣ　② ＡＰＥＴＨ　③ ＡＰＸＨ　④ ＺΩＯＮ

問３　下線部(b) に関して，ロゴスの意味として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［18］

① 論理　② 自然　③ 言葉　④ 理性

問４　次の弁証法についての文を読み，空欄［19］［20］に入る最も適当な語を，下の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ

［19］は『論理学』でカテゴリーに関するカントの学説を超えようとする。あらゆる事物には，カテゴリーの形式が内在する。普遍は個に内在する。しかし，カントはカテゴリーを有機的に導き出すことに失敗しているばかりか，カテゴリーと事物を〈結合する〉にとどまり，その内在を〈展開する〉にいたっていない。［19］は普遍と個の総合の仕方に独自の有機体的構想を用いて，カテゴリーの体系的展開を示す。これが弁証法である。

普遍は個に担われていながらも，個そのものではなく，個から自立している。国民一人一人は，生まれ死ぬが，国家そのものは，一つ一つの個からは自立している。個はしかし〈自己〉の本質を国家の内にもつ。普遍なしに個はない。しかし，個が支えることなしに普遍はない。この意味での〈普遍〉が，〈解消と移行における肯定的なもの〉である。例えば，人柄という本質を諸行為が現すとき，行為だけが実在すると考える唯名論的立場と，行為をはなれても人柄があると考える実念論的立場の両方が否定され，かつ総合される。

［19］の弁証法は，単なる学理的手法や主観的論理ではない。彼固有の絶対的観念論に支えられて，それは同時に存在界の理法でもある。いっさいの悟性的固定化の排却と相即する弁証法的存在観においては，万物が流転的生滅の通時的変化相で観ぜられるだけでなく，万象が相互的浸透の共時的関連相で観ぜられる。この存在観のもとでは，いわゆる〈実体〉や〈本質〉でさえ変化するものとされ，しかもその変化は〈否定の否定〉を通じて［20］の段階的進展相を呈するものとされる。

［19］
① ヘラクレイトス　② ヘーゲル
③ アリストテレス　④ マルクス

［20］
① 真・善・美　② 正・反・合
③ 守・離・破　④ 大前提・小前提・結論

問５　次の A～C の説とそれを説いた自然哲学者の組み合わせとして，最も適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。［21］

A　万物のもとのものは神的な空気で，この空気が希薄になると暖かい火が生じ，濃厚になると冷たい水や土や石などが生じるが，この希薄化と濃厚化を通じて生じたあらゆるものは，ふたたび空気へ返る。

B　不変不動の一つなる「有るもの」を思索した師を弁護するために，弁証論を駆使した「パラドクス」を提出した。多くのものが存在することを否定する論とアリストテレスが報告している運動否定論(「多否定論」「二分法」「アキレウスと亀」「飛矢」「競技場」)である。

C　存在するもののもとのものは水でもなければ，普通に要素と呼ばれているいかなるものでもなくて，ある無規定的なる，無限なるものであり，そのものから全天界と天界の内における世界が生じる。ものが生成して存在を獲得するに至ったその基をなすものへと，そのものはまた必然の定めに従って消滅し去る。

①　A エレアのゼノン　B アナクシマンドロス　C アナクシメネス
②　A エレアのゼノン　B アナクシメネス　C アナクシマンドロス
③　A アナクシマンドロス　B エレアのゼノン　C アナクシメネス
④　A アナクシマンドロス　B アナクシメネス　C エレアのゼノン
⑤　A アナクシメネス　B エレアのゼノン　C アナクシマンドロス
⑥　A アナクシメネス　B アナクシマンドロス　C エレアのゼノン

問６　次の説明があらわす自然哲学者として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［22］

『自然について』は地水火風の四元素と，愛と憎という二つの力とを中心にして展開する宇宙論である。愛は四元素を結合する力，憎は分離する力であるが，この二つの力の勢力の消長交代によって宇宙は四つの時期に区分されながら永遠に回帰する。第 1 期は愛のみが支配し四元素は完全に融合して一つの巨大な球を形成する。第 2 期は憎が作用しはじめ球が解体するが，同時に愛の力も働いているので，四元素のさまざまな合成が実現し，各種の生物も発生し，宇宙が具体的な形を示す時期。第 3 期は憎のみが支配して四元素は完全に分裂し，四元素からなる四つの集団に分かれる。第 4 期は愛がふたたび力を振るい，四元素がさまざまに結合して第 2 期と同じ様相を示す。そして宇宙はもとの球の姿にもどる。

①　デモクリトス　②　パルメニデス　③　エンペドクレス　④　ヘラクレイトス

第３問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問４**）に答えよ。(配点　14)

やがて紀元前5世紀ごろになると，思索の対象は［　23　］からノモスへ移っていった。つまり，人間から独立して存在し，みずからの形を自分で生み出し発展していく［　23　］の働きへの関心よりも，人間のとり決めや約束事，つまり，(a)ノモスによって成り立つ世界への関心がましてきた。その中心となったのがソフィスト（知恵のある人）とよばれる一群の知識人たちである。彼らは，ギリシア各地の諸都市をめぐりながら，さまざまな言説や知見を用いて目の前の聴衆を説得する［　24　］を，青年たちに教えた。

その代表的人物が (b)プロタゴラスである。彼は「人間は万物の尺度である」とのべ，真理の基準に客観的なものはなく，人間一人ひとりの判断がものごとの真偽を決めるという相対主義を主張した。それまで普遍的で［　25　］的な「真理」と考えられてきたものを，人間のとり決めにすぎないとしたのである。このようなソフィストたちの実践は，「真理」に挑戦し，それを (c)批判的に論じるための言論の実践を教えるものでもあった。

問１　文章中の空欄［　23　］～［　25　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［23］
① ミュトス　② プラクシス
③ ロゴス　④ ピュシス

［24］
① 詭弁　② 問答法
③ 弁論術　④ 徳

［25］
① 貪食　② 詭弁
③ 懐疑　④ 絶対

問２　下線部(a)に関して，ノモスによって成り立つ世界として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。［26］

① 政治　② 自然界　③ 都市国家　④ 法廷

問３　下線部(b) に関して，次のプロタゴラスについて述べられた文中の空欄［27］に入る語として最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。

プロタゴラスの思想を端的に表すのは，私たちにもすでに広く知られている，「人間尺度節（ホモ・メンスラ）」の説であろう。

人間が万物の尺度である。すなわち，そうあるものどもについては，そうあるということの，そうあらぬものどもについては，そうあらぬということの（尺度である）（断片１）

この章句が，感覚されるものと真実在とを厳格に区別し，ただ思惟によってのみ把握しうる，絶対的な，不変の実在を措定する［　27　］派とそれに追従する哲学者たちに向けられた批判と解するのは，すでに古代人の間でも定説であったようである。(廣川洋一『ソクラテス以前の哲学者』)

① ペリパトス　② ミレトス　③ イオニア　④ エレア

問４　下線部（c）に関して，ソフィストの言論の実践について述べられた，次の文中の空欄［28］［29］に入る語として最も適当なものを下の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。

美女ヘレネは，詩人たちをはじめ，古来人々からトロイア戦争の元凶をなした悪女と非難されてきた。もしヘレネが貞節を守ってスパルタに留まっていたら，あるいは，一時の過ちを悔いてすぐにトロイアから戻ったなら，あれだけ悲惨な戦争は起こらずに済んだであろう。ところが，世に「悪女」として知られるこの女性を，［　28　］は正面から弁護し，まったく責められるべきではないと主張する。この宣言は，当時のギリシア人にとってはきわめて挑発的であったろう。［　28　］の戦略は，人々の意表を突き，常識を真っ向から覆す企てにあった。「悪女」ヘレネに月並な悪罵を浴びせたとしても，それほど強烈な印象は喚起できない。あえて「逆説的な言論」（パラドクソロギア）を展開することで，もしそれが成功すれば，それだけ大きな評判を得ることになるのである。何よりもこの企ては，聴く人々の魂に悦びを与える。［　28　］はあえて困難な主題に挑むことで，どんな主題でも見事に論じられるという，自らの言論能力を演示しようとしているのである。

［　28　］は，非難する人々を「論駁する」ことが「（正しく言論を）語る」男の務めであるとする。そのために，「言論に理を与える」ことにより，相手の偽っていることを「演示し」，「［　29　］を提示して，無知を止める」と宣言する。ここに並べられた言葉は，理性的な言論活動を表わす，馴染みの哲学用語である。他方で，相手を論駁する試みの演示性を強調すれば，これはソフィスト的な（つまり，いかがわしい）言論の宣言にもなる。この両義性は，無論，［　28　］によって意図されたものであり，そこで「［　29　］」の意味が問われる。

自らが提示した逆説的な言論の［　29　］性を，［　28　］はどうも本当には信じておらず（ヘレネがこのように無実であるとは，やはりとうてい信じられないであろう），むしろそうでないことを何ら意識しながらも，人々を悦ばせる「遊び」として，ありそうもないことをあえて論証する言論を作りだしているように疑われるからである。

「虚偽」を口先で「［　29　］」と言いくるめるような単純な「欺き」ではなく，［　29　］と虚偽，本物と偽物の区別や秩序を逆転させる言論がここに導入されている。虚偽を説得するのも抗い難い力であるとするとそれがそのまま「［　29　］」となる。いや虚偽こそが最も強力な［　29　］なのかもしれない。常識が依拠し，また，哲学が基盤とする「［　29　］／虚偽」の区別を妖しくなし崩すところに，［　28　］の「言論」の秘密がある。

納富信留『ソフィストとは誰か？』より

［　28　］①　プロタゴラス　　②　ゴルギアス　　③　パリス　　④　ソクラテス

［　29　］①　真理　　②　相対　　③　懐疑　　④　詭弁

第４問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問５**）に答えよ。（配点　20）

ある日ソクラテスは，友人から，「ソクラテス以上の知者はいない」という (a)デルフォイの神託を告げられる。自分自身は知者などではないと自覚していたソクラテスは，これにとまどい，神託の真の意味をさぐろうとした。そこで，当時「知者」と思われていた人々を訪ね，実際に自分よりすぐれた知者がいることを確認して，神託に反論しようとした。しかし，対話による吟味の結果，ソクラテスが発見したのは，そうした人々は世間から知者だと思われ，自分自身でもそう思いこんでいるが，実際にはそうでないということであった。とくに［　30　］のことがらというもっとも重要なことについて対話した人々はみな，あいまいな考え方に満足していたのである。

ソクラテスは，この対話による吟味のなかから，次のような［　31　］的真理を理解した。［　30　］の事柄について無知であるのは，対話相手も自分も同じである。しかし，対話した人々は知らないのに知っていると思いこんでいるが，自分は知らないからそのとおり知らないと思っている。このように，無知の知をもっている点で，自分の方が知者なのである。神託が告げたのも，人間が無知の状態にあることを自覚し，それをきっかけとして本当の知を求めることの重要性であった。

このような自覚のもとに，ソクラテスが (b)対話活動を通じてアテネ市民に語りかけたのは，「自分自身の魂がすぐれたものになるように配慮せよ」ということ(魂への配慮)であった。ソクラテスにとって，魂がすぐれたものであることこそ徳にほかならない。当時の人々が求めていた金銭や名誉なども徳があってこそはじめて幸福に結びつく(福徳一致)。そのような徳は，本当によいこと，正しいことを知ることによって得ることができる。この徳は［　32　］であるという考え方は，(c)人のすぐれたあり方(徳)を家柄や財産に求める伝統的な考え方や，政治的な有力者になる能力であるとするソフィストたちの考え方とも，根本的に異なるものであった。

ソクラテスの活動は一部の市民からは，神を冒とくし，［　33　］を堕落させるとみなされ，彼は裁判で死刑を宣告された。友人たちのなかには，評決が不当であると主張して脱獄を勧める者もいたが，(d)ソクラテスはこれを拒否し，毒杯をあおいで死をむかえた。彼にとって重要だったのは，ただ生きのびることではなく，自分が考えぬいたうえで正しいと判断した生き方にしたがうことだったのである。「たんに生きることではなく，よく生きることこそ大切である」ということばが，彼の信念をよく伝えている。

問１　文章中の空欄［　30　］～［　33　］に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

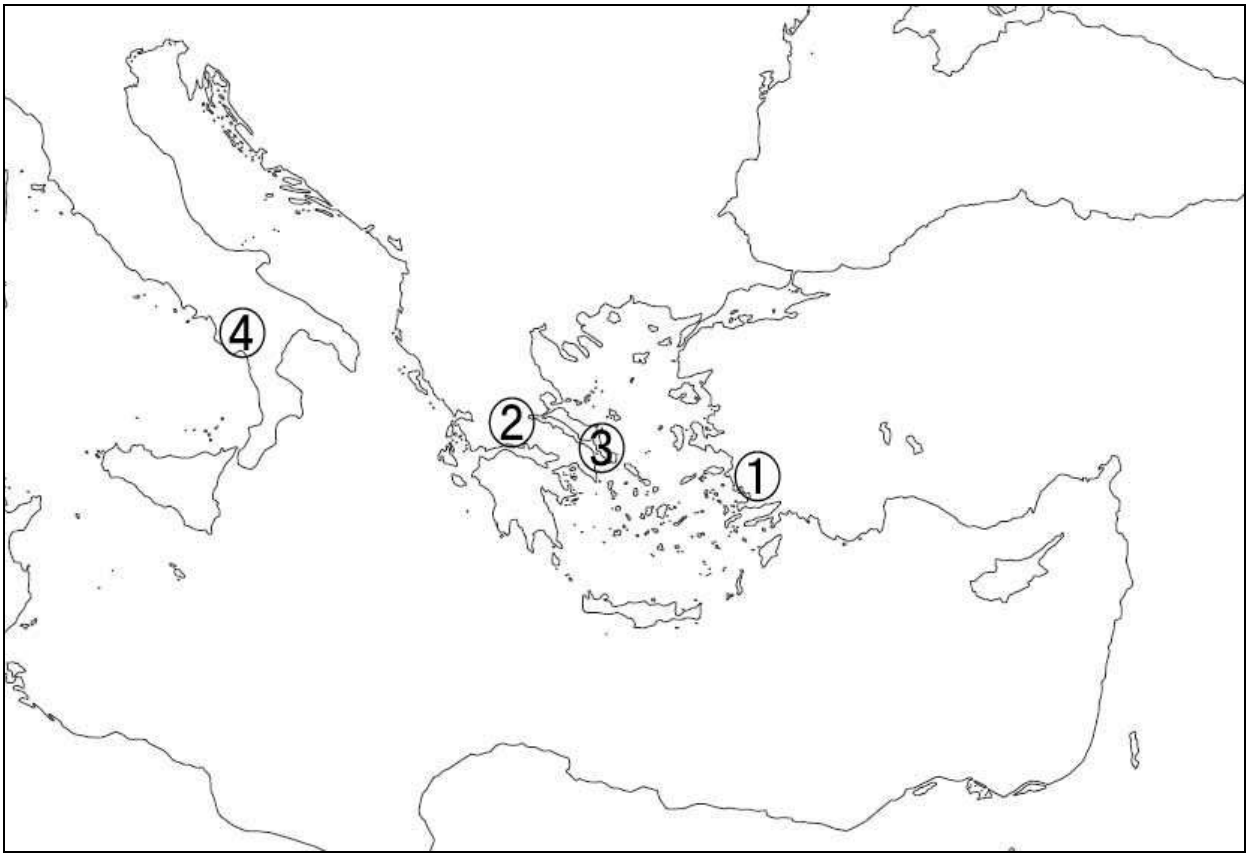
［30］
① アレテー　② プシュケー
③ ソフィア　④ カロカガティア

［31］
① 逆説　② 相対
③ 同語反復　④ 神話

［32］
① 卓越性　② 知恵
③ 弁論術　④ 無知

［33］ ① ポリス　② 知者
③ 青年　④ 哲学

問２　下線部(a)に関して，デルフォイの場所として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［34］



問３　下線部(b)に関して，ソクラテスの対話活動として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。［35］

①　産婆術　②　レトリケー　③　ディアレクティケー　④　エイロネイア

問４　下線部(c)に関して，人のすぐれたあり方(徳)を意味する語として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。［36］

①　アレテー　②　アガトン　③　アルケー　④　アパテイア

問５　下線部(d)に関して，ソクラテスの死について書かれた文中の空欄［37］～［39］に入る語として最も適当なものを，下の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。

『パイドン』は，ソクラテスと仲間たちの最期の一日，その対話を描く。

魂の［　37　］が論じ尽くされた後，ソクラテスは「神話」として死後の運命を語る。そして，対話がすべて終わった時，竹馬の友クリトンがソクラテスに，何か言い遺しておくことはないか，と尋ねる。残される子供たちのことなど，何かして欲しいことはないかと。

すると，ソクラテスはこう答える。

「まさにいつも語ってきたことだよ，クリトン。何も新しいことなどない。つまり，君たちが君たち自身を配慮していれば，何を為そうとも，私にも私の身内にも君たち自身にも，喜ばしいことをしていることになるのだ。」（『パイドン』115B）

ソクラテスが一生をかけて従事してきた「[　38　]」の営みとは，人々と対話を交わしながら「自身を配慮すること」，つまり，魂が出来るだけ善くなるように配慮する促しであった。

「魂」とは何か？　それは「私がある」というその「私自身」のあり方に他ならない。その配慮を，プラトン『ソクラテスの弁明』はとりわけ強調していた。ソクラテスは，生涯においていつも同じことを語ってきた。『パイドン』の対話も，死を前にして初めて考察する主題ではなく，ソクラテスがいつも考えながら生きてきたあり方を，改めて言葉において語り直す試みであった。プラトンが『パイドン』に結実させた対話の意味は，[　39　]そのものであった。[　38　]はいつも同じことを語る，その都度の始まりである。

クリトンは続いて，ソクラテスに埋葬の仕方を尋ねる。ソクラテスは微笑んで人々に語りかける。

「私はクリトンを説得していないようだね。「私」とは，いま対話を交わし，語られた各々の言葉を配置した，このソクラテスであるということを。」　（『パイドン』115c）

ソクラテス自身とは，対話を交わす「魂」である。それが離れた身体は，もはやソクラテスではなかった。この発言は，とりもなおさず，ソクラテスと最期の対話を交わしていた人々が彼の魂そのものと言葉によって交わっていたことを告げている。

沐浴をし，三人の子供たちや身内と別れを告げ，牢獄で面倒をみてくれた役人と挨拶を交わす。少し早いながら毒を持ってくるように頼む。すり潰された毒人参を，神々への祈りとともに飲み干す。次第に足が重くなり，仰向けに寝たソクラテスは，静かに感覚をなくし，その毒は心臓に迫っていく。ソクラテスはそこで最期の言葉を発する。

「クリトン，私たちはアスクレピオス神に鶏のお供えをする務めを果たさなければならない。君たちがその責務を果たしてくれたまえ。配慮を怠らずにね。」（『パイドン』118A）

身体がピクリとして動かなくなった亡骸に寄り，クリトンは静かに両眼を閉じさせる。

「これが，エケクラテス，私たちの友なる人で，当時私たちが出会った人々のなかで――私たちが言いうる――もっとも善き，とりわけ，思慮と正しさにおいてもっとも優れた方の最期だったのです。」（『パイドン』118A）

「ソクラテスの死」を記憶に留め，それを想起し続けること，それが「哲学者の生」の始まりであった。ソクラテスの最期に立ち会った仲間たち，それを著すプラトン，そして『パイドン』を読むことでその場に臨席する私たちが，皆，ソクラテスの死から[　38　]を始めることを促されている。

[37] ①　輪廻　　②　善美　　③　不死　　④　無知

[38] ①　哲学　　②　弁論　　③　学問　　④　皮肉

[39] ①ソクラテスの言葉　②ソクラテスの生　③友との議論　④友との友情

第５問　次の文章を読み，下の問い（**問１～問６**）に答えよ。(配点　22)

ソクラテスは，「正義」「勇気」など重要な倫理的価値について，それが「何であるか」を徹底的に追究した。プラトンは，このソクラテスの「～とは何であるか」という問いに答えられるような何ものかが存在すると考え，それを「～そのもの」という形で表現した。プラトンは，このような存在こそ，ソクラテスが求めたような厳密な知識の対象となりうる［　40　］であるとし，(a)<u>イデア</u>とよんだ。

感覚を通じて出会う個々の事象が存在するのは，イデアを原型・模範とするからであるが，さまざまなイデアのなかで究極で最高のイデアを，プラトンは［　41　］のイデアとよんだ。この［　41　］のイデアはほかのイデアの原理であり，学ぶべき最大のものであった。以上のようなイデア論からみるとき，多くの人々の生き方は，本来のあり方とは逆転していることになる。感覚を通じて出会う対象は，［　40　］であるイデアのいわば影像や写しにすぎないのに，それを事物の真の姿だと思いこんでいるからである。プラトンは，このような人々のありさまを (b)<u>洞窟のなかにとらわれている囚人</u>のようすにたとえた。

プラトンは，人間の魂のうちに，もともとイデアへ向かおうとする知的欲求が存在していることを，次のように描写している。人間の魂は，かつて天の外に存在してイデアを見ていたが，その後地上に墜落し，人間の身体に宿ることになった。だから人間は，かつての真理の世界に対して恋こがれる［　42　］をもち，そこに上昇しようと努めるのである。

プラトンによれば，国家は統治者階級，［　43　］階級，生産者階級の三つの階級から成立する。統治者階級は国家の最善のあり方を考えるために知恵を，［　43　］階級は国家を防衛するために勇気を，そして生産者階級は欲望をおさえて他の階級と協調するために［　44　］を，それぞれそなえる必要がある。このようにして各階級が「その本分を果たす」とき，国家は秩序ある正しい状態となり，国家の全体に正義の徳がそなわるのである。

個人についても同じように考えられる，とプラトンはいう。人間の魂には［　45　］的部分，気概的部分，欲望的部分という三つの部分が存在するが，このうち［　45　］的部分が知恵を，気概的部分が勇気を，欲望的部分が［　44　］を，それぞれ身につけなければならない。そのようにして各部分が「その本分を果たす」とき，魂は調和した状態となり，魂の全体に正義の徳がそなわるのである。

国家の最善のあり方を考えるのは統治者階級であるから，正しい国家を実現するためには，この階級が身につけるべき「知恵」が，本当にたしかな知識でなければならない。そのような確実な知識を求めるのは，欲望や野心に引きずられた自称政治家ではなく，真理(イデア)に目をひらかれた哲学者である。したがって，理想的国家を実現するためには「哲学する者が政治権力の座につくか，あるいは権力を有する人々が哲学するのでなければならない」と，プラトンは考えた。この (c)<u>哲人政治の思想</u>は，ソクラテスの理想を受けつぎつつ，それに政治をも変革するような実践的な力をあたえるものであった。

問１　文章中の空欄［　40　］～［　45　］に入れる最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

［40］
① 真の偏在　　② 仮の内在
③ 仮の存在　　④ 真の実在

［41］
① 善　② 真
③ 美　④ 聖

［42］
① エロース　② フィリア
③ ウェヌス　④ アガペー

［43］
① 戦闘者　② 消費者
③ 防衛者　④ 破壊者

［44］
① 機知　② 節制
③ 寛仁　④ 抑制

［45］
① 理性　② 良心
③ 認識　④ 本性

問２　下線部(a)に関して，イデアについての説明として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。［46］

① 動詞 idein(見る)に対応して「姿」「形」を意味するギリシア語
② 純粋の思考によってのみとらえうる存在
③ 確実な知をもたらす，知の目ざすべき真実在
④ 想像や空想が作り出した仮想的対象

問３　下線部(b)に関連して，次の『国家』の引用文中の空欄［47］に入る語として最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。

今話したこの比喩を全体として，先に話したことがらに結びつけてもらわなければならない。つまり，［47］を通してあらわれる領域というのは，囚人の住まいに比すべきものであり，その住まいの中にある火の光は，太陽の機能に比すべきものであると考えてもらうのだ。そして，上へ昇っていって上方の事物を観ることは，魂が〈思惟によって知らせる世界〉へと上昇していくことであると考えてくれれば，僕が言いたいと思っていたことだけは捕らえ損なうことはないだろう。

① 視覚　② 聴覚　③ 思考　④ 想像

問４　『国家』に示される哲人政治の説明として，最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［48］

① 統治者階級はまずしっかりとした家庭を築かなければならない。
② 統治者階級の優れた子どもを育て，劣った子どもは育ててはならない。
③ 統治者階級は民主主義を保護しなければならない。
④ 統治者階級は男性のみが担わなければならない。

問題はまだ続きます

問５　プラトンが魂について論じた内容として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［49］【2011 年センター試験より】

① 人間の魂は死後に肉体から解放されてはじめてイデアを見ることになるとし，イデアへの憧(あこが)れ(エロース)が哲学の原動力であると論じた。

② 人間の魂は生まれる以前にイデアを見ていたとし，感覚的事物を手がかりとしてイデアを想起すること(アナムネーシス)ができると論じた。

③ 人間の魂を国家と類比的に捉(とら)え，個々人の魂に正義の徳が具(そな)わるためには，国家全体の正義を確立することが必要であると論じた。

④ 人間の魂を理性，気概，欲望の三つの部分に分けて捉え，これら三部分が互いに抑制し合うことで正義の徳が成立すると論じた。

問６　プラトンの主張の記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［50］【2001 年センター試験】

① 真理は，普遍的なものとして客観的に存在するのではなく，判断を下す個々の人間と事物との相対的な関係に依存する。

② 善悪を決定するのは個人の快・不快であり，至高の価値は，公共生活から退くことによって魂が永続的に安定するところにある。

③ 人間の最高の幸福は，理性の純粋な活動によって，個々の事物に内在する形相のあり方を観想することである。

④ 個々の事物は真の実在の影にすぎないが，人間の魂はかつて真の実在の世界に住んでいたので，それを想起することで真理を把握できる。

これで問題は終わりです。